

# 十勝連峰（富良野岳～十勝岳～美瑛岳） 山行報告

※北海道山行 後半

【山域】北海道 【日程】2017年7月6日～7月7日

【メンバー】CL 佐藤・SL 齋藤（健）・岸野・堀田

7月6日＝十勝岳温泉登山口（7：00）－ 富良野岳（10：30）－ 上ホロカメトック山（14：00）  
－ 上ホロ避難小屋（14：20）

7月7日＝上ホロ避難小屋出発（4：10）－ 十勝岳（5：10）－ 美瑛岳（8：00）  
－ 望岳台 十勝岳登山口



## 最後のピーク（美瑛岳）

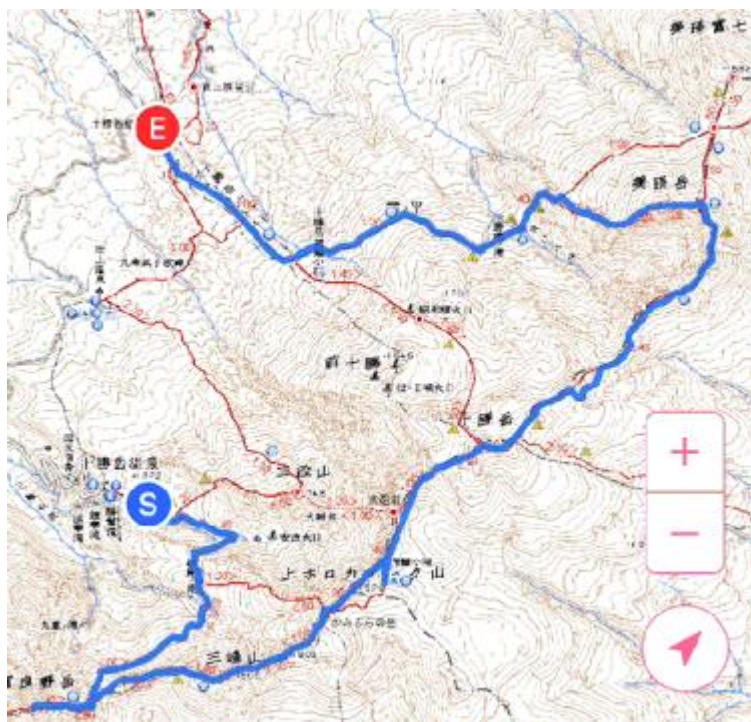
楽しかった「北海道山行」も2日間の十勝連峰縦走（20, 5k m）を残すのみとなりました。そもそも「北海道」という地名は何故「道」なのか？？以前から疑問に思っていたのですが、たしか五畿七道が・・・（・ω・）・・・ちゃんと調べてみた。

※廃藩置県は明治政府が幕藩体制の「藩」を国の直轄する地方機関である「県」や「府」に置き換えたものです。しかし当時の「蝦夷地」には江戸幕府の支配は及んでおらず、本州と同等の藩も存在していませんでした。

ロシアの進出等、新しい一つの地方機関で蝦夷地を管轄する必要があった明治新政府は、奈良時代から平安時代にかけて存在した“五畿七道”という行政区画を参考にしたようです。“五畿七道”とは五国（山城・大和・摂津・河内・和泉）と七道（東海道・南海道・西海道・東山道・北陸道・山陽道・山陰道）です。「東海道・西海道・南海道」はあるのに、「北の海道」は無い・・・という事で蝦夷地を「北海道」と命名した様です。

一時期、「函館県」「札幌県」「根室県」の3県が存在した時もあった様です。

早々に山行報告から脱線してしまいましたが・・・



GPSトレース

十勝連峰は、大雪山国立公園の南西部に位置し、北東から南西へと連なります。主峰は活火山の十勝岳である。この山はたびたび大爆発を起こし、山麓の町村に多大の被害を与えている。最近では昭和63年(1988)12月に噴火して、しばらくは登山も禁止されていた。周辺にいくつかの噴火口を有し、今も活動を続けている目の離せない山です。



登山口前で最終確認



十勝岳温泉登山口スタート (7:00)



富良野岳が見えてきました



富良野岳山頂 1911.9m (10:30)



富良野岳から観た十勝岳



花の百名山ですね



十勝連峰最南端の富良野岳。北に険しい尾根を引いた姿・美しい緑の山は想像以上に魅力的でした。何時までも眺めていただけるくらい大好きになりました！

※「富良野」という地名の由来はアイヌ語の「フラーヌイ」（におう炎、臭いニオイのする所）。十勝岳の噴気に因んだと言われるそうです。



⇒ 「LOVE山」にお別れを告げ・・・ かつみふらの岳 1893m (13:30) ⇒



⇒ 上ホロカメットク山を目指します ⇒ 上ホロカメットク山 1920m (14:00)

※ 上ホロ避難小屋到着 (14:20)

7月7日＝北海道・十勝連峰山行も最終日。十勝岳・美瑛岳を通り「望岳台登山口」に下山します。



上ホロ避難小屋スタート (4:10)



火山らしい荒々しい景色です



十勝岳 2077m (5:10)



裏側から観た十勝岳 (百名山)



美瑛岳 2052m (8:00)



美瑛富士です



下山開始



望岳台登山口(12:30) 山行終了

「トムラウシ山」から北海道の最高峰「旭岳」へと「北海道の屋根」と言われている憧れコースを花を愛でながら歩いた大雪山系。色とりどりの高山植物が迎えてくれた十勝連峰。そして山容と緑の美しさに圧倒された富良野岳・・・是非 また訪れてみたい山になりました。

素敵な山行を準備して下さった佐藤CLをはじめ お世話になった皆様 有難うございました。